

# 福島県原子力発電所安全確保技術検討会

多核種除去設備処理水希釈放出設備に関する  
追加意見・コメントへのご回答

The logo for TEPCO (Tokai Electric Power Company) is displayed in red, bold, uppercase letters. It is positioned on the right side of the page, above a thick red horizontal line that spans the width of the page.

2022年6月13日  
東京電力ホールディングス株式会社

## &lt;No.2&gt;

- 最初の数年は「日々発生するALPS処理水」と「タンクに貯留されているALPS処理水等」は、どの程度の比率で放出されるのか。今後の計画について大枠を示すこと。

## &lt;No.4&gt;

- 二次処理した処理水の放出が始まるのはいつになるのか。またその量はどの程度になるか計画の大枠について説明すること。

## &lt;No.2,4回答&gt;

## 【放出開始当初】

- 測定・確認用設備であるK4タンク群に新たなALPS処理水を受けられるようにするため、測定・確認用設備内の「タンクに貯留されているALPS処理水等」約3万m<sup>3</sup>をまず放出する。
- この実施にあたっては、政府方針を踏まえ慎重に少量での放出から開始する。

## 【通常運用時】

- 「日々発生するALPS処理水」と「タンクに貯留されているALPS処理水等」のうち、トリチウム濃度の薄いものを優先して放出する。
- 現時点において、「日々発生するALPS処理水」のトリチウム濃度は約20万Bq/Lであるため、「タンクに貯留されているALPS処理水等」のうち20万Bq/Lを下回るタンクの放出が完了以降は「日々発生するALPS処理水」の放出が優先される。比率については次頁参照。

## 【二次処理】

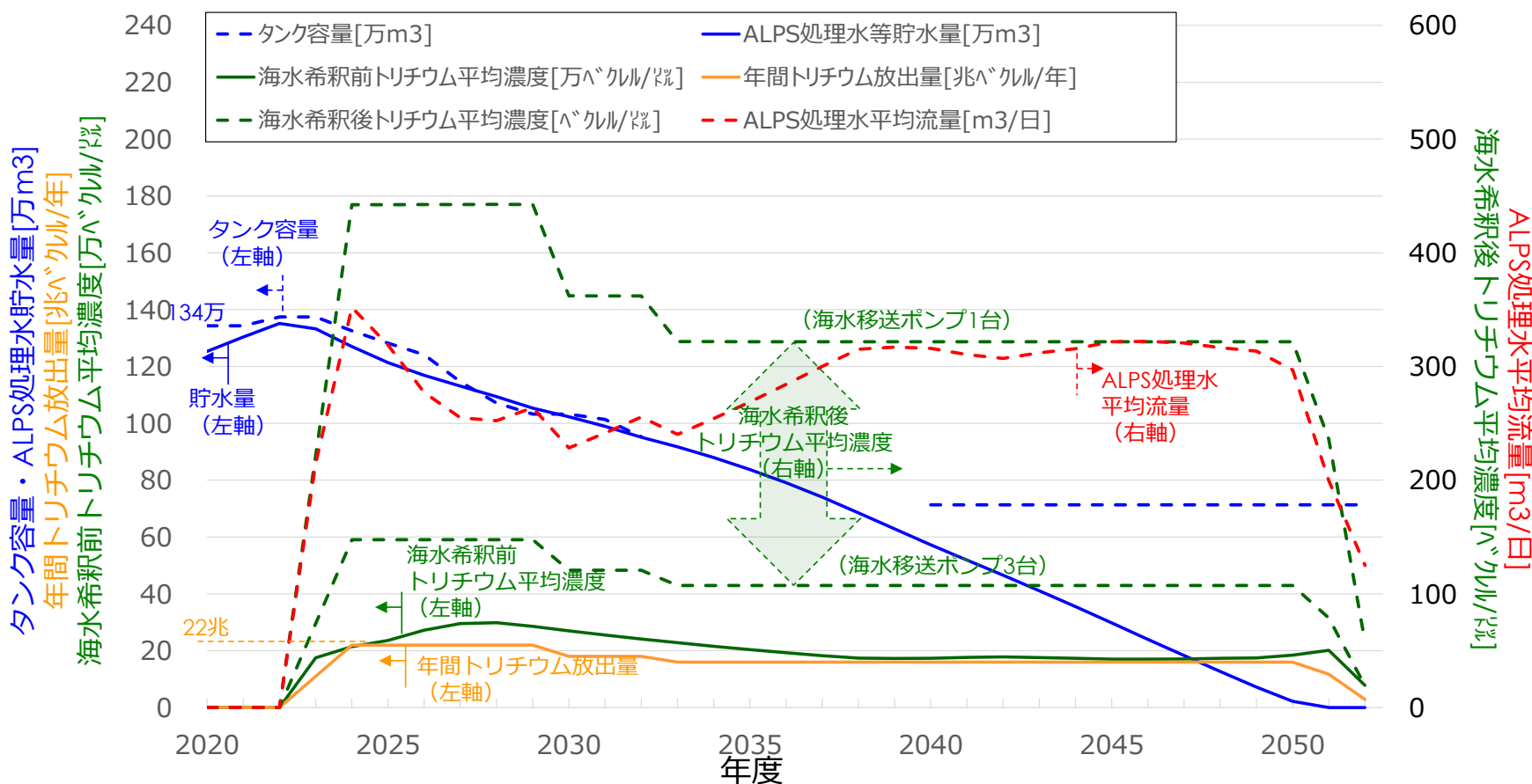
- 二次処理後のALPS処理水の貯留するタンクの確保ができた以降、処理途上水を二次処理して放出する。二次処理の対象水量は約85万m<sup>3</sup>であり、ALPS3設備の中で日々発生する汚染水を処理する設備と二次処理する設備に振り分けて処理を行う。二次処理の開始は2020年代中頃を想定している。



## 【将来の貯水量の減少見通し】

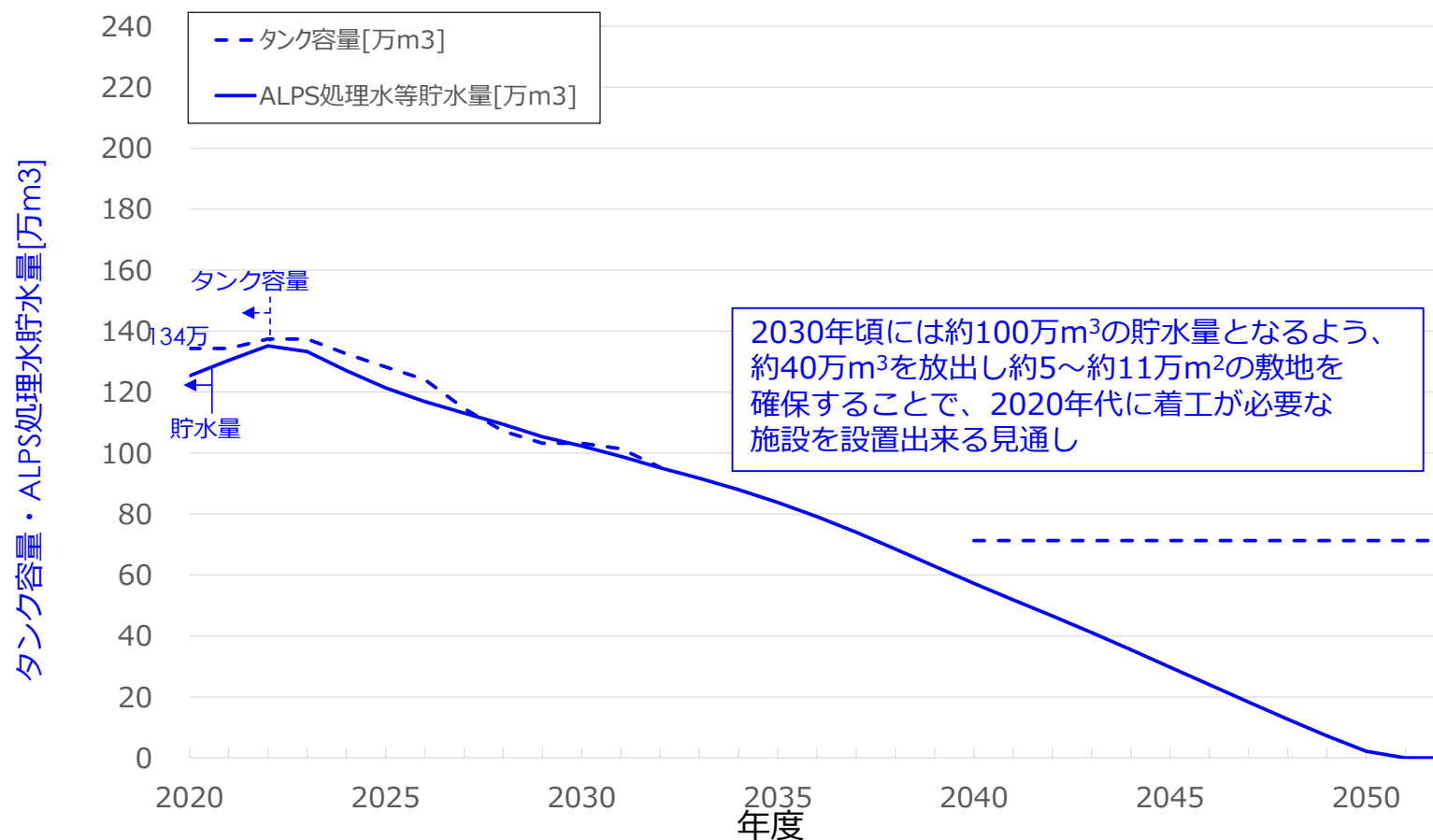
- 海洋放出完了を2051年とし、敷地利用に影響を与えない範囲で、年間トリチウム放出量が出来だけ少なくなるようシミュレーションを実施している。
- 貯水量の見通しは下図青実線の通り。2030年頃には約100万 $m^3$ の貯水量となるよう、約40万 $m^3$ を放出し約5～約11万 $m^2$ の敷地を確保することで、2020年代に着工が必要な施設を設置出来る見通しである。

令和3年度第5回福島県原子力発電所安全確保技術検討会 資料1より抜粋



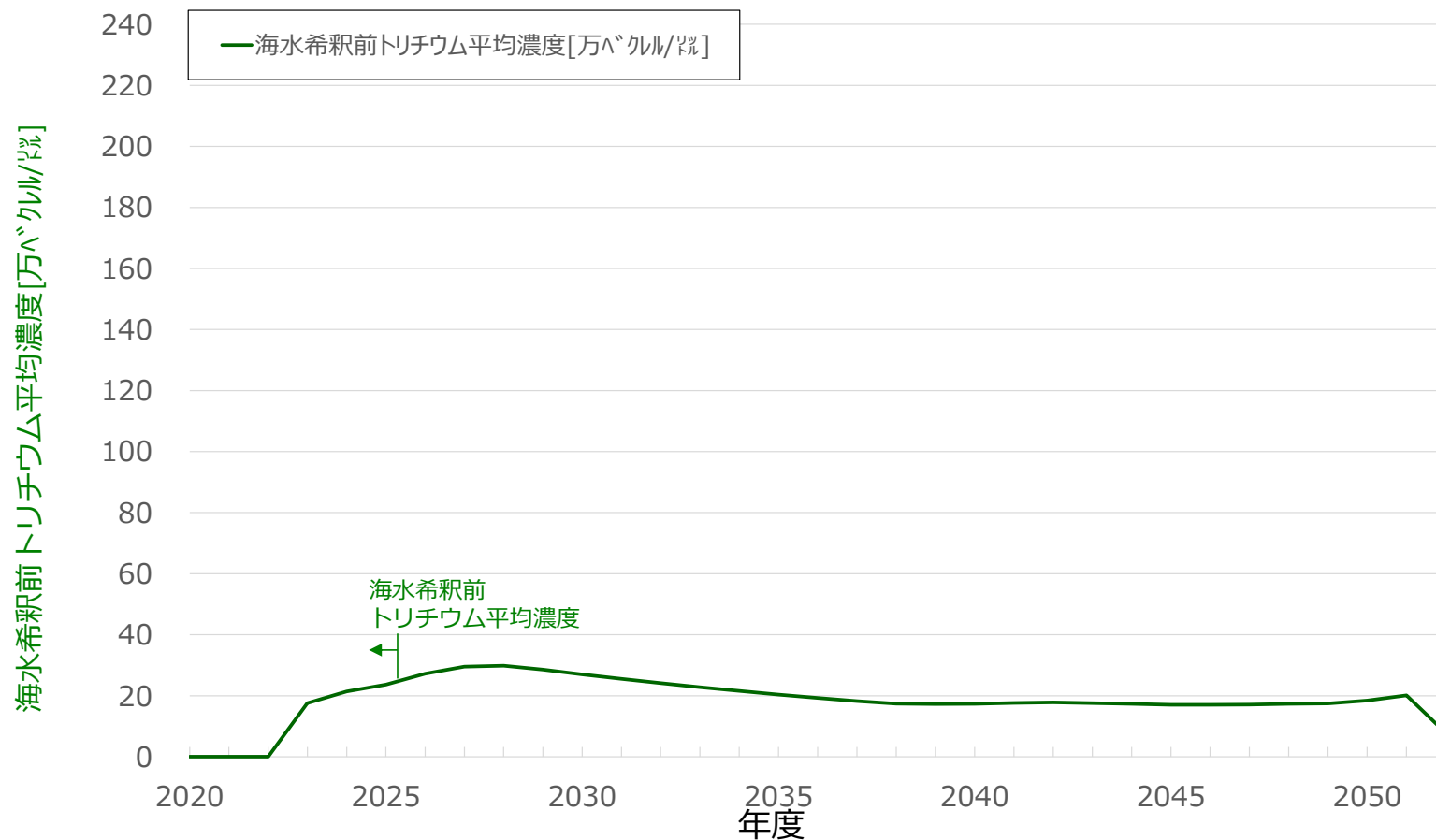
## タンク容量及びALPS処理水等貯水量

令和3年度第5回福島県原子力発電所安全確保技術検討会 資料1を加工

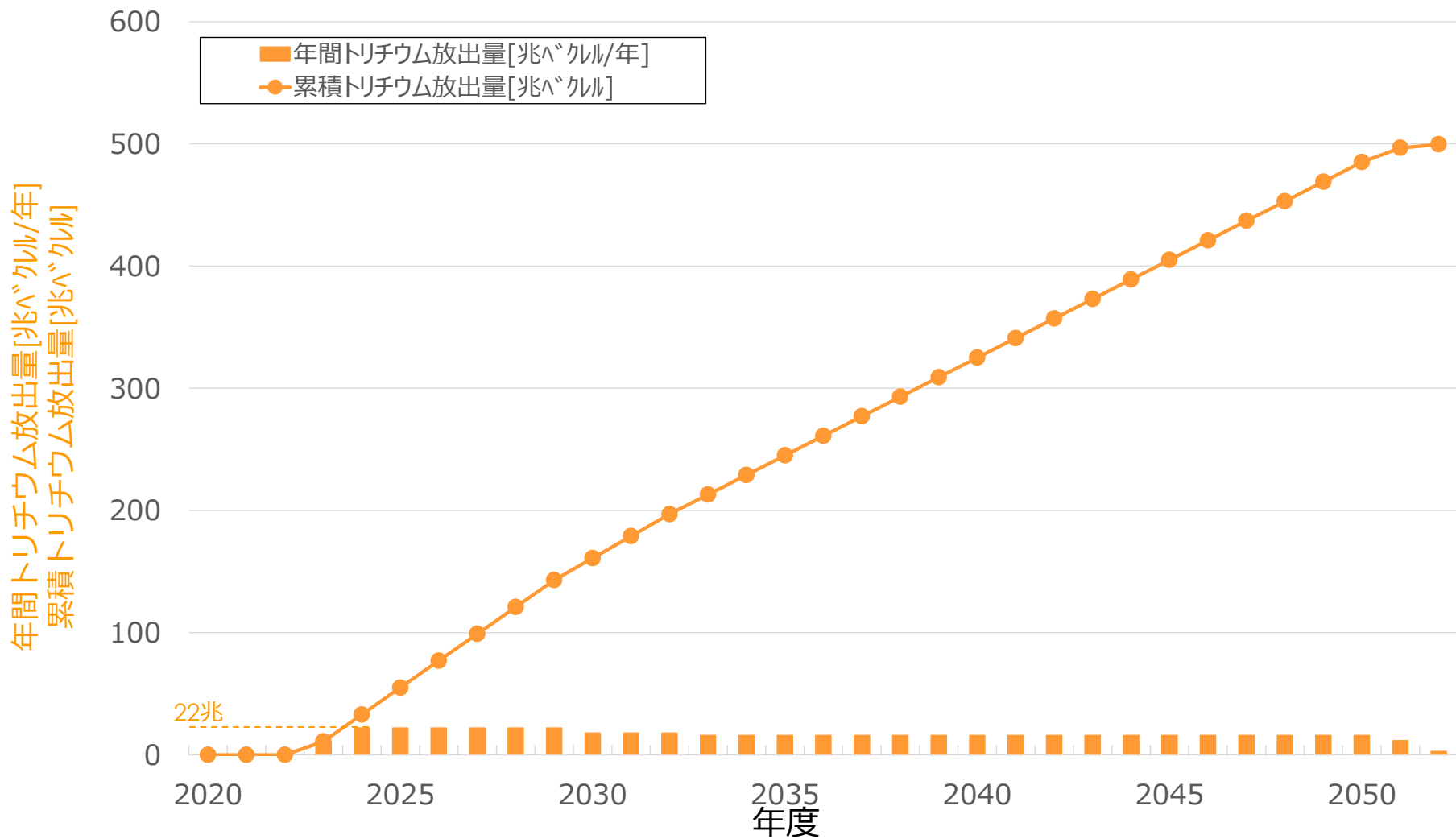


## 海水希釈前トリチウム平均濃度

令和3年度第5回福島県原子力発電所安全確保技術検討会 資料1を加工

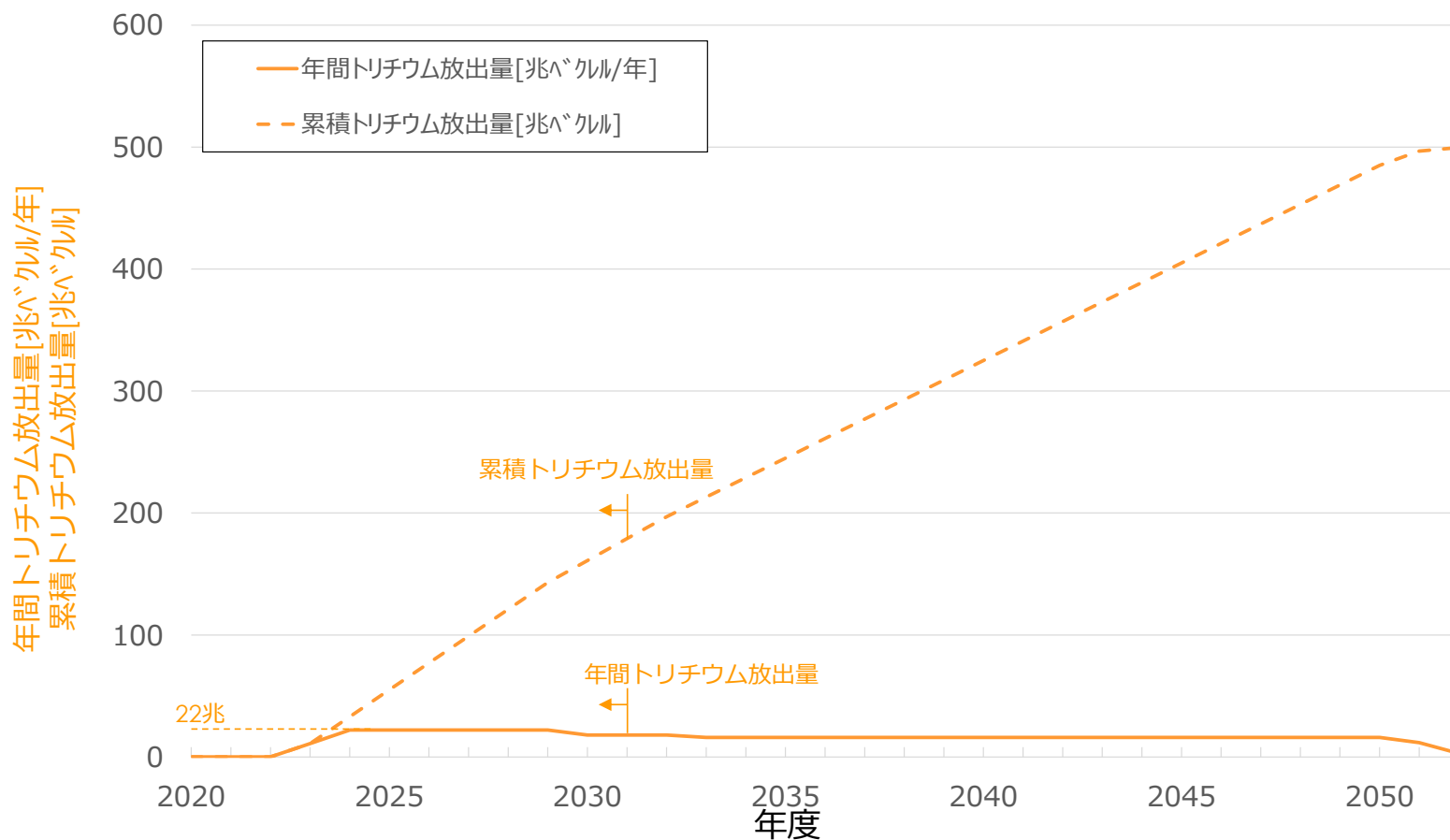


令和3年度第5回福島県原子力発電所安全確保技術検討会 資料1を加工



## 年間トリチウム放出量及び累積トリチウム放出量

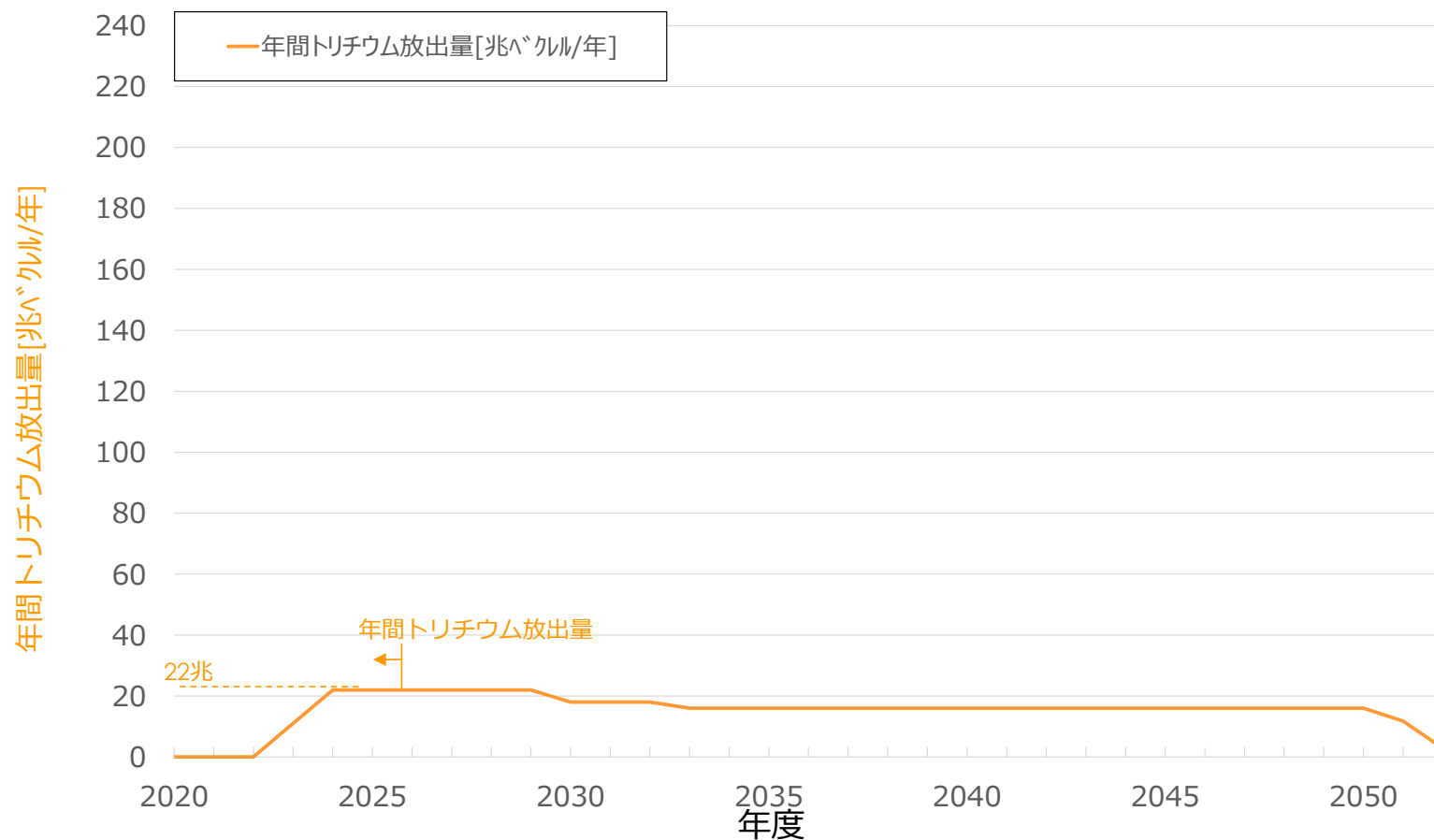
令和3年度第5回福島県原子力発電所安全確保技術検討会 資料1を加工





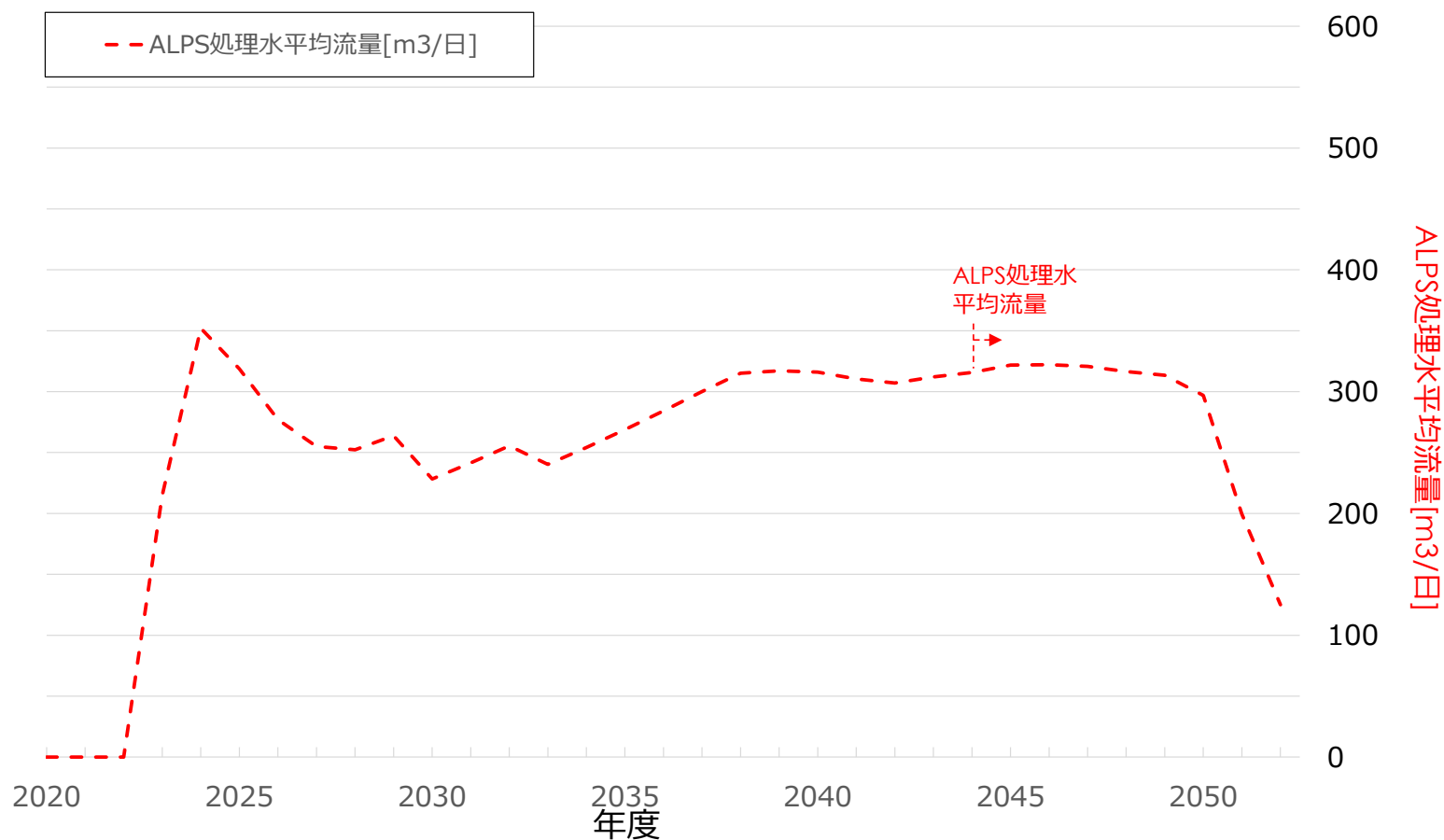
## 年間トリチウム放出量

令和3年度第5回福島県原子力発電所安全確保技術検討会 資料1を加工



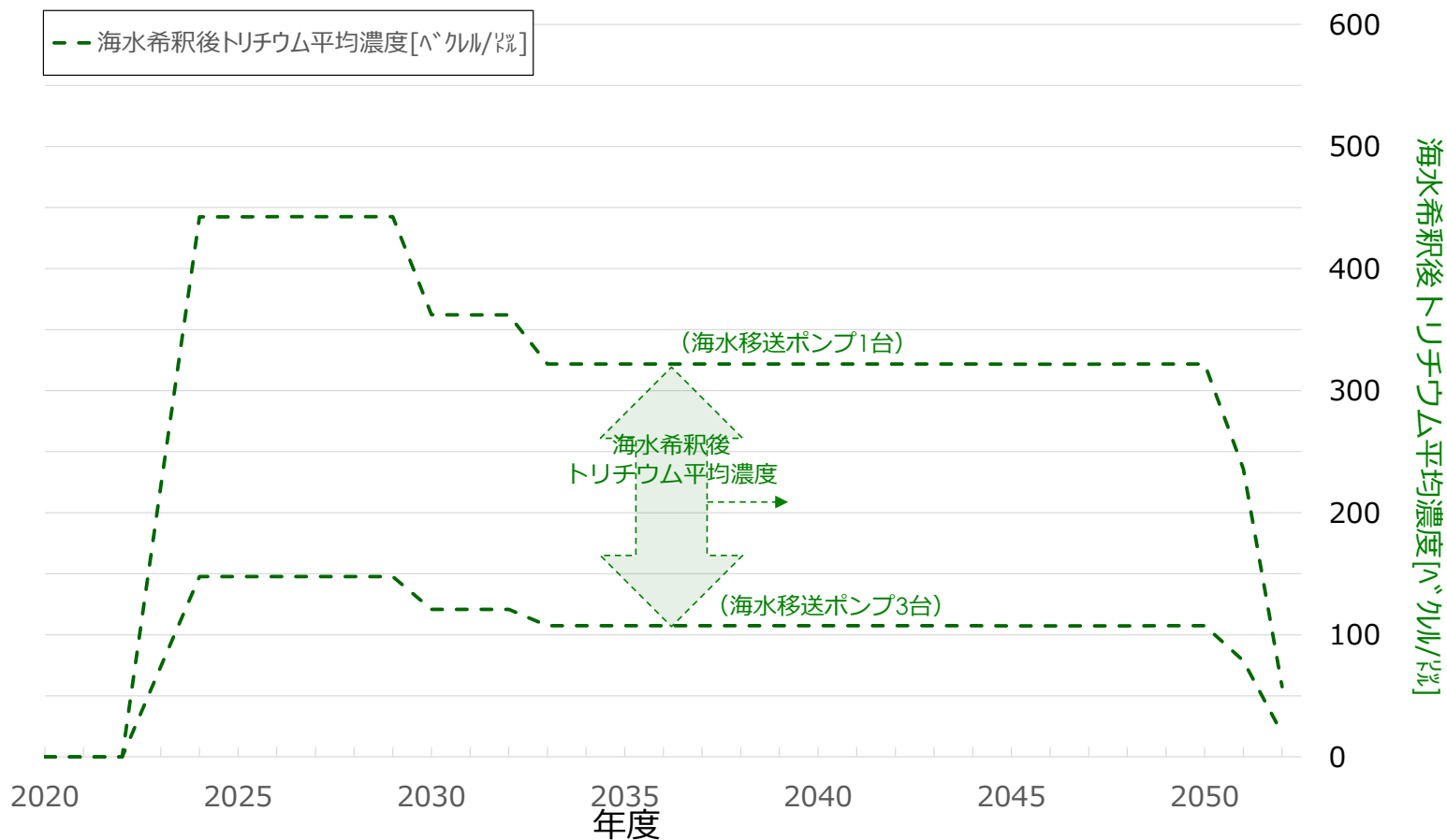
## ALPS处理水平均流量

令和3年度第5回福島県原子力発電所安全確保技術検討会 資料1を加工

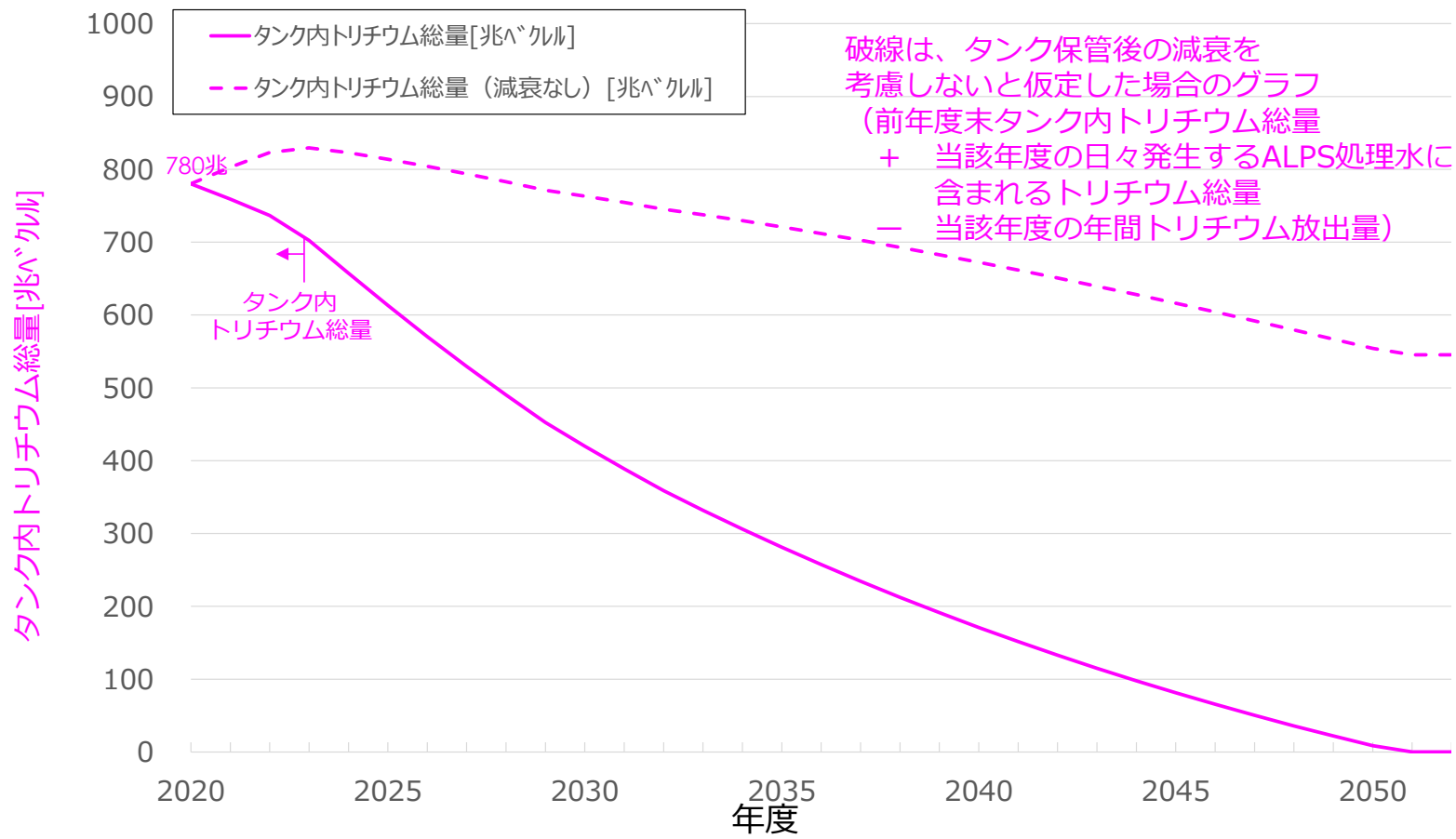


### 海水希釈後トリチウム濃度

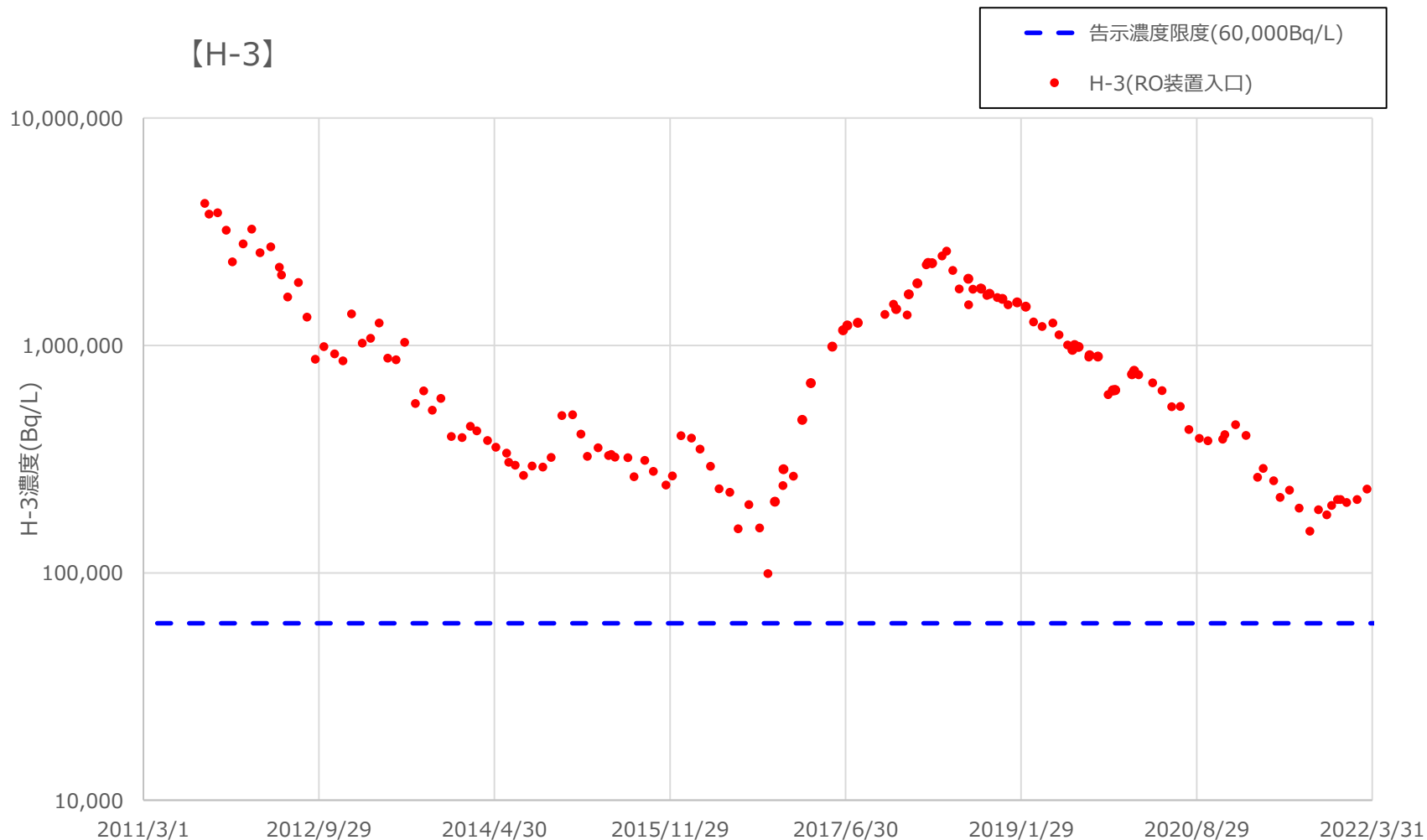
令和3年度第5回福島県原子力発電所安全確保技術検討会 資料1を加工



### タンク内トリチウム総量



【参考】 RO装置入口トリチウム濃度



※ 2015/4/30以降のデータは当社HP「福島第一原子力発電所における日々の放射性物質の分析結果」に掲載のデータ

【参考】 タンク内のトリチウム濃度と保有水量

